

第 129 回日本森林学会大会のお知らせ（第 2 回）

一般社団法人 日本森林学会会長
第 129 回日本森林学会大会運営委員長

第 129 回大会を高知県高知市で開催します。詳細は随時、学会ウェブサイト (<https://www.forestry.jp/meeting/>) に掲載します。日本森林学会メールマガジン（月 1 回配信）でもお知らせいたしますので、登録をお願いします (<https://www.forestry.jp/mail/magazine/>)。

1. 日 程

	午 前	午 後
2018 年 3 月 26 日（月）	日本森林学会各賞授賞式・受賞者講演	市民公開シンポジウム
3 月 27 日（火）	研究発表	研究発表・懇親会
3 月 28 日（水）	研究発表	研究発表
3 月 29 日（木）	関連研究集会	関連研究集会

2. 会 場 高知県高知市（主に高知大学朝倉キャンパス；3/26 は高知県立県民文化ホール）

3. 参加・発表資格

【会員】

- 大会参加の事前申込みを行うことができます。
- 研究発表を行うことができます。
- 入会予定の方は学会ウェブサイトの「入会案内」を御覧下さい (<http://www.forestry.jp/welcome.html>)。入会手続きが完了していませんと、学術講演集原稿（要旨）の入稿ができませんので、お早めに入会手続きをお済ませください。

【非会員】

- 大会当日の受け付けにより参加することができます。事前のオンライン登録はできません。
- 研究発表を行うことはできません。ただし企画シンポジウムでは、コーディネータからの申請に基づき非会員の方も研究発表を行うことができます（その場合は、オンラインでの事前参加登録と研究発表登録を行い、参加費をお支払いください）。

【研究発表を行わない学部生（大会参加登録開始の時点で学部所属している学生）】

- 会員・非会員ともに大会参加費が無料となります。大会当日のみの受け付けです。事前のオンライン登録はできません。なお、「発表を行う学部生の学生会員」および「学部生以外の学生会員（例えば大学院生）」は大会参加費をお支払いください。

4. 研究発表の概要

- 研究発表は、部門別口頭発表、部門別ポスター発表、公募セッション（口頭発表；ポスター発表を受け付けるセッションもあり）、企画シンポジウム（口頭発表のみ）に分けて行います。
- 第 129 回大会より、「教育」部門が新設されました。林政、風致、教育、経営、造林、遺伝・育種、生理、植物生態、立地、防災、利用、動物・昆虫、微生物、特用林産の 14 部門となります。また、第 128 回大会よりいくつかの部門名が改称されています。部門選択の際には 5. の部門キーワードを参考にしてください。
- 公募セッションは、既存の部門ではカバーできない部門横断的なテーマについて会員の研究交流を継続的に進めることを目的としたセッションです。ポスター発表が併設される公募セッションもあります。発表者は公募のみで、部門別発表と同様の発表形式です。129 回大会で設置される公募セッションは、学会ウェブサイトに掲載します（9 月下旬を予定しています）。
- 企画シンポジウムは、森林学に関する明瞭で簡潔にまとめたテーマをもったシンポジウムです。発表者は公募せずコーディネータが決定します。企画シンポジウムの講演者も研究発表の申込みを行ってください。129 回大会で開催される企画シンポジウムは、学会ウェブサイトに掲載します（9 月下旬を予定しています）。
- 発表者は筆頭者に限ります。また筆頭者としての発表は、すべての発表形式を通じて 1 人 1 件に限ります（ただし学会各賞を受賞された方の受賞者講演は除きます）。筆頭者以外の著者による代理発表はできませんのでご注意ください。

- 部門別口頭発表と部門別ポスター発表、公募セッションの発表者は本学会会員(平成 29 年度分)に限ります。会員でない方は、研究発表申込みの前に、学会ウェブサイトの「入会案内」(<http://www.forestry.jp/welcome.html>)から入会の手続きを行ってください。
- 部門別口頭発表、部門別ポスター発表、公募セッションのいずれで発表するかは、原則として発表者の希望によりますが、プログラム編成委員会で調整を行う場合がありますので、ご了承ください。ポスター発表会場のスペースに制限がありますので、なるべく口頭発表にお申込みください。
- 研究発表は、森林学に関する研究成果で、学術講演集の原稿の締切(2018年1月11日(木))までに結果と結論の得られるものとします。
- 学会ウェブサイトから発表の申込みを行っていただきます。参加申込み、発表申込みのサイトは10月下旬に開設します。申込み方法の詳細は学会ウェブサイト(<http://www.forestry.jp/>)でお知らせします。
- 研究発表申込みの際に登録した著者名・所属、題名は、2017年11月16日(木)17:00以降は修正ができません。したがって、学術講演集原稿の提出時にも修正ができません。申込みの際には共著者(特に学生の方は指導教員の先生等)とよく相談した上でお申込みください。
- 口頭発表の器材は液晶プロジェクターとします。OHPは使用できません。

5. 部門キーワード

林政部門(委員長:田中伸彦(東海大学), 委員:奥敬一(富山大学), 山本信次(岩手大学), 横田康裕(森林総合研究所), 興梠克久(筑波大学))

経済学・社会的アプローチ, 森林・林業政策, 林業経済, 木材産業・流通, 山村社会・経済, 環境・資源ガバナンス, 自然資源管理政策, 伝統文化, 市民参加・住民参加

Forest Policy

economic and sociological approaches, forest and forestry policy, forest economy, forest products industry and market, mountain village society and economy, governance on the environment and resources, natural resource management policy, traditional culture, public participation

風致部門(委員長:田中伸彦(東海大学), 委員:奥敬一(富山大学), 山本信次(岩手大学), 横田康裕(森林総合研究所), 興梠克久(筑波大学))

空間・計画論的アプローチ, 景観, 公園緑地, 世界遺産, 森林療養, 観光, レクリエーション, 保護地域管理, 伝統文化

Landscape Management

spatial and planning approaches, landscape, parks and open spaces, world heritage, forest therapy, tourism, recreation, protected area management, traditional culture

教育部門(委員長:杉浦克明(日本大学), 委員:大石康彦(森林総合研究所), 井上真理子(森林総合研究所), 東原貴志(上越教育大学), 青柳かつら(北海道博物館))

森林教育, 森林環境教育, 環境教育, 野外教育, 専門教育, 学校教育, 社会教育・施設, 林産教育, 木育, 教材・プログラム, 教育評価・効果, 指導者養成, カリキュラムマネジメント, 研修・安全教育, 地域学習, 地域連携, サイエンスコミュニケーション, 教育倫理

Education

forest education, forest environmental education, environmental education, outdoor education, specialized education, school education, social education and facility, forest products education, wood education, teaching materials and program, educational assessment and effect, leadership training, curriculum management, training and safety education, community study, regional partnership, science communication, educational ethics

経営部門(委員長:光田靖(宮崎大学), 委員:松村直人(三重大学), 広嶋卓也(東京大学), 加藤顕(千葉大学), 田中真哉(森林総合研究所))

森林計画, 経営評価, 機能評価, 森林作業法, 森林調査法, 成長モデル, モニタリング, リモートセンシング, 森林 GIS, 景観管理, LiDAR, 航空レーザ測量, 地上レーザ測量, デジタル航空写真測量, SfM, REDD+, 収穫予測, ゾーニング, オペレーションズリサーチ

Forest Management

forest planning, forest management assessment, forest function evaluation, forest working system, forest inventory, growth model, monitoring, remote sensing, forest GIS, landscape management, LiDAR, airborne laser scanning, terrestrial laser scanning, digital photogrammetry, SfM, REDD+, yield prediction, forest zoning, operations research

造林部門（委員長：酒井敦（森林総合研究所）、委員：吉田俊也（北海道大学）、平田令子（宮崎大学）、渡邊仁志（岐阜県森林研究所）、八木橋勉（森林総合研究所））

人工林, 成長, 競争, 林分構造, 密度管理, 光環境, 種子生産, 種子散布, 育苗, 植栽, 下刈り, 間伐, 皆伐, 長伐期施業, 複層林施業, 混交林施業, 広葉樹林化, 天然更新, 萌芽, 里山管理, バイオマス, 低コスト造林

Silviculture

planted forest, growth, competition, stand structure, density control, light environment, seed production, seed dispersal, nursery practices, planting, weeding, thinning, clearcutting, long-rotation forestry, uneven-aged forestry, mixed forest management, restoration of natural forest, natural regeneration, coppice, satoyama, biomass, low-cost silviculture

遺伝・育種部門（委員長：森口喜成（新潟大学）、委員：木村恵（森林総合研究所）、玉木一郎（岐阜県立森林文化アカデミー）、内山憲太郎（森林総合研究所）、石塚航（北海道立総合研究機構林業試験場））

遺伝子資源保全, 育種計画, 材質育種, 抵抗性育種, 花粉症対策, 特性評価, 種苗増殖, 育苗技術, 採種園, 組織培養, 分子育種, 遺伝子工学, ゲノム解析, 連鎖解析, 発現解析, 遺伝子流動, 遺伝構造, 遺伝的多様性, 系統地理, 適応, 交雑, 着花促進

Forest Genetics and Tree Breeding

genetic conservation, breeding strategy, improvement of wood property, breeding for resistance, countermeasure for pollinosis, test of specific character, propagation of nursery stocks, nursing technology, seed orchard, tissue culture, molecular breeding, genetic engineering, genome analysis, linkage analysis, analysis of gene expression, gene flow, genetic structure, genetic diversity, phylogeography, adaptation, hybridization, promotion of strobilus

生理部門（委員長：則定真利子（東京大学）、委員：小島克己（東京大学）、斎藤秀之（北海道大学）、田原恒（森林総合研究所）、津山孝人（九州大学））

樹木生理, 個体生理, 生態生理, 水分生理, 栄養成長, 生殖成長, 物質輸送, 栄養, 環境応答, ストレス耐性, 光合成, 呼吸, 代謝, 細胞小器官, 細胞壁, 植物ホルモン, 組織培養, 形質転換, 遺伝子発現, ゲノム解析, エピゲノム解析, オミクス解析

Tree Physiology

tree physiology, whole plant physiology, ecophysiology, water relation, vegetative growth, reproductive growth, transport, nutrition, environmental response, stress tolerance, photosynthesis, respiration, metabolism, organelle, cell wall, plant hormones, tissue culture, genetic transformation, gene expression, genomics, epigenomics, omics

植物生態部門（委員長：長池卓男（山梨県森林総合研究所）、委員：今博計（北海道立総合研究機構林業試験場）、鳥丸猛（三重大学）、平山貴美子（京都府立大学）、松井哲哉（森林総合研究所））

生物多様性, 生態系サービス, 生態系機能, 生態系管理, ゾーニング, 森林景観, 順応的管理, 生物群集, 生物間相互作用, 攪乱, 植生遷移, 物質循環, 森林動態, 植物遺体, 樹形, 生活史戦略, 気候変動, 地理分布, モデル

Forest Ecology

biological diversity, ecosystem service, ecosystem function, ecosystem management, zoning, forested landscape, adaptive management, plant community, biological interaction, disturbance, plant succession, material cycle, forest dynamics, litter and woody debris, tree architecture, life-history strategy, climate change, geographical distribution, model

立地部門（委員長：大久保達弘（宇都宮大学），委員：石塚成宏（森林総合研究所），釣田竜也（森林総合研究所），丹下健（東京大学），徳地直子（京都大学），戸田浩人（東京農工大学），長倉淳子（森林総合研究所））

土壌生成，土壌分類，土壌理化学性，炭素動態，窒素動態，物質循環，気象害，水循環，土壌生物，花粉分析，地位，植物生態，森林衰退，大気降水物，地球温暖化，細根動態，放射性物質，生物地球化学，土壌呼吸，温室効果ガス

Forest Environment

pedogenesis, soil classification, soil physical and chemical properties, carbon dynamics, nitrogen dynamics, nutrient cycling, meteorological damage, hydrological cycle, soil organisms, pollen analysis, site quality, plant ecology, forest decline, atmospheric deposition, global warming, fine root dynamics, radioactive substance, biogeochemistry, soil respiration, greenhouse gas

防災部門（委員長：野口正二（森林総合研究所），委員：岡田康彦（森林総合研究所），勝山正則（京都大学），澤野真治（森林総合研究所），田中延亮（東京大学））

森林防災，土砂災害，斜面安定，表面侵食，水文，水循環，流域，降雨流出過程，蒸発散，樹木の水分生理，土壌水分，森林気象，緑化，水質，物質循環，同位体，トレーサー，大気降水物，地下水，温室効果ガス，気候変動，水資源

Forest Disaster Prevention and Hydrology

forest disaster prevention, sediment-related disaster, slope stability, surface erosion, hydrology, water cycle, catchment, rainfall-runoff process, evapotranspiration, water-related plant physiology, soil moisture, forest meteorology, revegetation, water quality, biogeochemical cycle, isotope, tracer, atmospheric deposition, groundwater, greenhouse gases, climate change, water resources

利用部門（委員長：有賀一広（宇都宮大学），委員：鹿島潤（森林総合研究所），山口浩和（森林総合研究所），松本武（東京農工大学），斎藤仁志（信州大学））

森林路網，林業土木，木材生産，林業機械，林業用ロボット，作業システム，労働科学，安全管理，バイオマス利用，森林情報，ロジスティクス，環境へのインパクト，ICT，再造林技術

Forest Engineering

forest road network, forest civil engineering, timber production, forest machinery, forestry robot, working system, ergonomics, safety management, biomass utilization, forest information, logistics, environmental impact, information and communication technology, reforestation technology

動物・昆虫部門（委員長：肘井直樹（名古屋大学），委員：中村克典（森林総合研究所），山崎理正（京都大学），小池伸介（東京農工大学），加賀谷悦子（森林総合研究所））

森林昆虫，森林病虫害，マツ枯れ（マツ材線虫病），ナラ枯れ（ブナ科樹木萎凋病），キクイムシ，共生微生物，森林動物，野生動物管理，ニホンジカ，ツキノワグマ，森林性鳥類，生物間相互作用，生物群集，食物網，生物多様性，個体群動態，密度調節，大発生，種子散布，土壌動物，外来生物

Forest Insects and Animals

forest insects, forest pest, pine wilt disease, oak wilt, scolytid and platypodid beetles, symbiotic microbes, vertebrates in forests, wildlife management, sika deer, Asian black bear, forest birds, biological interaction, ecological community, food web, biodiversity, population dynamics, regulation of population density, outbreak, seed dispersal, soil animals, alien organisms

微生物部門（委員長：奈良一秀（東京大学），委員：太田祐子（日本大学），松田陽介（三重大学），竹内祐子（京都大学），小松雅史（森林総合研究所），小長谷啓介（森林総合研究所））

菌類，細菌類，菌根菌，内生菌，木材腐朽菌，共生，寄生，分解，養分循環，根粒，窒素固定，微生物群集生態，微生物集団遺伝，樹病，病原，防除，抵抗性，マツ枯れ，ナラ枯れ，線虫，ウイルス

Forest Microbes

fungi, bacteria, mycorrhizal fungi, endophytes, wood-decay fungi, symbiosis, parasitism, decomposition, nutrient cycle, root nodule, nitrogen fixation, microbial community ecology, microbial population genetics, forest pathology, pathogens, disease control, disease resistance, pine wilt disease, oak wilt disease, nematodes, virus

特用林産部門（委員長：奈良一秀（東京大学），委員：太田祐子（日本大学），松田陽介（三重大学），竹内祐子（京都大学），小松雅史（森林総合研究所），小長谷啓介（森林総合研究所））

きのこ，マツタケ，シイタケ，エノキタケ，シメジ，たけのこ，わさび，うるし，樹脂，山菜，竹材，トウ，木炭，樹実類，薬用植物

Non-Wood Forest Products

mushrooms, Matsutake, Shiitake, Enokitake, Shimeji, bamboo shoot, wasabi, lacquer, resin, edible wild plants, bamboo, rattan, charcoal, wild fruits, medicinal plants

6. 大会参加の申込み

大会参加ならびに懇親会の参加申込みは、すべて学会ウェブサイトの大会参加・研究発表申込み専用サイトからオンライン登録で行います。Fax, E-mailによる大会参加の受け付けは行いません。大会参加・研究発表申込み専用サイトは、学会のウェブサイトに10月下旬頃に開設します。

研究発表をする場合は、大会参加の申込みと7.の研究発表の申込みの両方を行ってください。

締切：2017年11月16日（木）17：00（研究発表をする場合）

締切：2018年1月11日（木）（研究発表はしないが、大会に参加し参加費を前納する場合）

- 登録の際、会員番号の入力が必要です。
会員番号は日本森林学会誌が封入されている封筒の表側に記載されています。これから入会を予定しており、参加申込みの時点で会員番号をまだお持ちでない方は、専用サイトから登録を行う際に仮番号が自動的に用意されます。ただし、研究発表をされる場合、正式の会員番号が入力されなければ学術講演集原稿の提出ができません。学術講演集原稿の提出締切の2018年1月11日までに会員番号が確実にお手元に届くよう、どうか余裕をもって入会手続きを行ってください。
- 大会参加の申込み時に参加費の払込みを行います。
参加費の払込みは基本的に専用サイトからカード決済（VISA, MASTER）で、期日までにお願います。大会参加費等の詳細は、学会ウェブサイトに掲載します。郵便振替をご利用の方は専用サイトで郵便振替選択ボタンをチェックの上、期日までに事務局で確認されるように振替を行ってください。払込取扱票は、参加者1名につき必ず1枚ずつ使用してください。郵便振替によるお支払いは、学会事務局で確認されるまでに7~10日程度かかる場合もあります。どうか余裕をもってお支払い手続きを行ってください。いったん納入された大会参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 参加費の払込み手続きが行われない場合には、研究発表をキャンセルしたものとして処理いたしますのでご注意ください。
- 研究発表をしない場合、事前の参加申込みでなく大会当日の参加申込みは可能ですが、受付が混雑して手続きに時間がかかることが予想されます。また、予想を上回る当日参加者があった場合、プログラムおよび大会学術講演集の配布ができない可能性がありますので、上記締切までにお申込みいただくようお願いします。

7. 研究発表の申込み

研究発表の申込みは、学会ウェブサイトの大会参加・研究発表申込み専用サイトからオンライン登録で行います。大会参加申込みをただけでは、研究発表の申込みは完了していません。必ず大会参加申込みの後に研究発表申込みを行ってください。専用サイトは10月下旬頃に開設します。

締切：2017年11月16日（木）17：00

- 研究発表の申込みの受理には、参加費の払込みが事務局で確認されることが必要となります。参加費の払込みが確認できない場合は、研究発表をキャンセルしたものととして処理いたしますのでご注意ください。
- 留意点などは、「4. 研究発表概要」を御覧下さい。

8. 学術講演集原稿の提出

学術講演集の原稿は、学会ウェブサイトの大会参加・研究発表申込み専用サイトからオンラインで入力してください。

締切：2018年1月11日（木）17：00

- 参加費の払込みが事務局で確認された時点で、入稿が可能となります。入会予定の方は、入会手続きの完了も必要となります。
- 原稿は、全角 500 字に相当するバイト数（制御文字含む）以内で日本語、または英語で入力してください（図表は使用できません）。ギリシャ文字、斜体、下付・上付文字などの入力は、入力画面の説明を参考にしてください（ワープロからコピー＆ペーストしても文字飾りは反映されませんのでご注意ください）。詳しい入力方法については、ウェブサイトに案内を掲載する予定です。また、2017年11月16日（木）17：00以降は、著者名・所属、題名の変更はできません。
- 学術講演集は冊子として印刷され、大会当日配布されるとともに、大会開催の約 1 ヶ月前に学会ホームページに掲載いたします。また、大会終了後には大会発表データベース（予稿集公開システム J-STAGE）にて公開される予定です。

9. 学生ポスター賞について

日本森林学会学生ポスター賞は、学生会員の研究の奨励を目的として、日本森林学会大会で優れたポスター発表を行った学生会員に授与されます。学生会員が筆頭発表者であり、研究発表申込時に学生ポスター賞に応募したポスター発表が対象です。学生会員の積極的な参加を期待しています。

10. 高校生ポスター発表募集

日本森林学会では、森林・林業への青少年の興味関心を喚起し、中等教育における学習研究を支援する目的から、第 125 回大会より高校生のポスター発表を実施しています。第 129 回大会でも同様にポスター発表を募集いたします。詳細は、7 月頃に公開します。応募は、11 月 16 日（木）締切の予定です。会員の皆様におかれましては、お知り合いの高校の先生・生徒の皆さんに応募をお勧めいただければ幸いです。

11. 関連研究集会について

本大会に付随して開催を予定している関連研究集会の責任者の方は、日時、テーマ、参加予定人数を 2017 年 11 月 16 日（木）までに大会運営委員会（jfs129@kochi-u.ac.jp）にご連絡ください。森林学に関連する研究集会であれば、定期的開催されているものでなくても構いません。採否は大会運営委員会が判断します。なお、会場費は開催者が負担し、また、会場係等も開催者が手配してください。会場大きさにより会場費は異なります。原則として 3 月 29 日（木）の開催のみ受け付けます。

12. 大会に関する連絡先

● 日本森林学会への入会に関する連絡先

〒102-0085 東京都千代田区六番町 7 日林協会館内

日本森林学会事務局

E-mail: office@forestry.jp

● 第 129 回大会の参加申込み・発表申込みシステムに関する連絡先

〒102-0085 東京都千代田区六番町 7 日林協会館内

日本森林学会事務局

E-mail: taikai@forestry.jp

・第129回大会の研究発表（部門別口頭発表，部門別ポスター発表，公募セッション，企画シンポジウム）に関する連絡先

〒102-0085 東京都千代田区六番町7 日林協会館内

日本森林学会プログラム編成委員会

E-mail: 129program@forestry.jp

・第129回大会学生ポスター賞に関する連絡先

〒102-0085 東京都千代田区六番町7 日林協会館内

第129回日本森林学会大会 学生ポスター賞選考委員会

E-mail: hyosyo@forestry.jp

・第129回大会高校生ポスター発表に関する連絡先

〒783-8502 高知県南国市物部乙200

高知大学農林海洋科学部農林資源環境科学科内

第129回日本森林学会大会運営委員会 高校生ポスター発表事務局

E-mail: high_school@forestry.jp

・第129回大会の上記以外（関連研究集会の申込みを含む）に関する連絡先

〒783-8502 高知県南国市物部乙200

高知大学農林海洋科学部農林資源環境科学科内

第129回日本森林学会大会運営委員会

E-mail: jfs129@kochi-u.ac.jp

公募セッション・企画シンポジウムの募集

第129回日本森林学会大会で、会員がコーディネータとなって企画する「公募セッション」と「企画シンポジウム」を以下の通り募集します。同一の会員が公募セッション、企画シンポジウムの両方のコーディネータとなることも可能です。

1) 公募セッションの募集

公募セッションとは、既存の部門ではカバーできない部門横断的なテーマについて、会員の研究交流を継続的に進めることを目的としたセッションです。1回限りではなく、継続性のあるテーマを設定してください。将来の部門化を目指すことも考えられます。

第129回大会より、教育部門が設置されます。林政、風致、教育、経営、造林、遺伝・育種、生理、植物生態、立地、防災、利用、動物・昆虫、微生物、特用林産の14部門となります。これらの部門でカバーできると考えられる提案は採択しませんので、ご注意下さい。

<公募セッションの応募と採択>

- コーディネータは、セッションのタイトル、趣旨を明記して応募してください。このタイトル、趣旨は、会員への発表募集のお知らせに用いますが、プログラム編成委員会より修正をお願いする場合があります。また、発表募集の前にコーディネータによる修正の機会を設けます。
- プログラム編成委員会が公募セッションの採否を決定します。既存部門でカバーできると考えられるもの、テーマが明瞭でないもの、発表者数が少ない、または多すぎるものが予想されるものについては、調整をお願いすることや、不採択とすることがあります。
- 会場の収容人数は70~290人です。ご希望の会場の大さき(70-100, 130-180, 280-290人規模)を応募の際にお知らせいただきますが、ご希望に添えない場合がありますのでご了承ください。

<公募セッションの発表方法>

- 公募セッションの発表形式は、部門別発表と同様の形式です。
- 発表者は公募のみとします。また、非会員の発表は認めません。
- ポスター発表の併設も可とします。併設のご希望は、応募の際にお知らせください。
- 口頭発表時間は、部門での通常の口頭発表の時間(質疑込みで1人あたり15分)と同一とします。時間の延長や短縮は認めません。
- 総合討論等は3-6件に1コマ(15分)で配置できるようにします。趣旨説明等も必要があれば配置できるようにします(1コマ15分)。
- 公募セッションの全体の時間制限を事前に設けることはしませんが、会場の都合により発表数(時間)を制限することがあります。

<公募セッションのコーディネータの当日までの役割>

- コーディネータは、以下のようにプログラム編成委員会の部門委員会に相当する役割を担っていただきます。
- コーディネータは、申し込まれた発表について当該公募セッションでの発表が適切かどうかを判断し、採択を決定してください(要旨提出前にプログラムを編成しますので、タイトル、キーワード、著者のみでご判断いただきます)。不採択の発表の申込者に連絡し、適切な部門等を紹介してください。またポスター発表を併設する場合は、口頭発表とポスター発表のどちらにするのかについても判断し、発表形式の変更がある場合には申込者へ連絡してください。
- コーディネータには、発表順の決定、総合討論の時間の配置、座長の決定等のプログラム編成作業を行っていただきます。11月上旬から12月上旬にこの作業を行っていただきますので、この期間の長期出張等は避けていただき、メールでの連絡が取れるようにしてください。
- コーディネータが複数の場合は、筆頭者を代表者とし、代表者の方のみにメールでの連絡を差し上げます。プログラム編成委員会との連絡を担当される方を代表者(筆頭者)としてください。

<公募セッションのコーディネータへの注意事項>

- 部門別の口頭発表と同一の時間帯に公募セッションの口頭発表を行います。このためコーディネータは他の公募セッションや部門の口頭発表にはほぼ参加できないとお考えください。
- 複数の公募セッションのコーディネータになることはできません。
- コーディネータは、他の公募セッションあるいは部門別の口頭発表や座長はできません。
- コーディネータ自身が当該公募セッションで発表してもかまいません。

<公募セッションの発表者への注意事項>

- 公募セッションの発表者は、企画シンポジウムでの発表や、他の公募セッション、部門別の口頭発表、筆頭者としてのポスター発表はできません（大会中の筆頭者としての発表は1つ）。

（2）企画シンポジウムの募集

企画シンポジウムは、会員がコーディネータとなって企画する、森林学に関する明瞭で簡潔にまとまったテーマをもったシンポジウムです。

<企画シンポジウムの応募と採択>

- コーディネータは、シンポジウムのタイトル、趣旨、発表予定者を明記して応募してください。このタイトル、趣旨は、会員へのお知らせに用いますが、プログラム編成委員会より修正をお願いする場合があります。また、コーディネータによる修正の機会も設けます。応募の時点では発表者が確定していなくても構いませんが、遅くとも11月下旬の発表申込みの締切までには確定してください。
- 3時間以内に納まるように企画してください。
- 部門委員会が企画するシンポジウムもこの枠で企画してください。
- プログラム編成委員会が採否を決定します。場合によっては類似する企画シンポジウムの統合（合同開催）を提案することがあります。
- 会場の収容人数は70~290人です。ご希望の会場の大きさ（70-100, 130-180, 280-290人規模）を応募の際にお知らせいただきますが、ご希望に添えない場合がありますのでご了承ください。

<企画シンポジウムの発表方法>

- 口頭発表のみとし、ポスター発表は併設しません。
- 発表人数、1人あたりの発表時間、趣旨説明・総合討論の時間等についてはコーディネータが自由に企画することができます。
- 発表者はすべてコーディネータが事前に決定します。発表者の公募は認めません。
- 内容によっては、若干名であれば非会員を発表者として認めます。その場合は、非会員の発表者が必要な理由を簡単に説明してください。非会員の発表者も大会参加費はお支払いいただくこととなりますので、ご了承ください。また、日本森林学会の発展のために会員になっていただくようコーディネータからも非会員の発表者にご依頼ください。

<企画シンポジウムのコーディネータの当日までの役割>

- コーディネータから発表予定者に、参加申込みや発表申込み、学術講演集の原稿の入稿等の連絡をお願いします。例年、参加申込みや要旨の入稿を忘れる方がいますので、ご注意ください。非会員の発表者には日本森林学会のメルマガや会員宛一斉メール、日林誌等が届きませんので、特に非会員の発表者がいる場合はご注意ください。
- コーディネータは、申し込まれた発表について当該企画シンポジウムで予定している発表かどうか確認し、発表順を決定してください。間違っして申し込んでいる方がいた場合は申込者に連絡し、適切な部門等を紹介してください。11月上旬から12月上旬にこの作業を行っていただきますので、この期間の長期出張等は避けていただき、メールでの連絡が取れるようにしてください。
- コーディネータが複数の場合は、筆頭者を代表者とし、代表者の方のみにメールでの連絡を差し上げます。プログラム編成委員会との連絡を担当される方を代表者（筆頭者）としてください。

<企画シンポジウムのコーディネータへの注意事項>

- 大会2日目（3/27）の午前に全ての企画シンポジウムを配置する予定です。このためコーディネータは他の企画シンポジウムに参加することはできないとお考えください。
- 複数の企画シンポジウムのコーディネータになることはできません。
- コーディネータは、他の企画シンポジウムの発表者になることはできません。
- コーディネータは、自らが企画する企画シンポジウムの発表者の1人となっても構いません。

<企画シンポジウムの発表者への注意事項>

- 企画シンポジウムの発表者は、他の企画シンポジウムでの発表や、公募セッション、部門別の口頭発表、筆頭者としてのポスター発表はできません（大会中の筆頭者としての発表は1つ）。

* 公募セッション、企画シンポジウムにコーディネータとして応募される会員は、下記の要領にしたがってお申込みください。

申込み方法

次の方法で、2017年8月24日(木)(必着)までに申し込んでください。プログラム編成委員会で調整した後、2017年9月22日(金)までにコーディネータ(複数の場合は代表者)に採否をお知らせします。

下記をE-mail本文に直接書込み、サブジェクトを「公募セッション申込み」または「企画シンポジウム申込み」とし、下記の日本森林学会プログラム編成委員会のアドレスにお送りください。E-mailを受取りましたら確認の返信をします。返信がない場合には、再度連絡をお願いします。

E-mailアドレス：129program@forestry.jp

(1) 公募セッションの場合

1. タイトル(日本語)
2. タイトル(英語)
3. 趣旨(日本語または英語)(日本語の場合、全角800字以内。英語の場合は、同程度の長さ)
4. コーディネータ(複数の場合も全ての方についてお書きください。複数の場合は、一番上の人を代表者としてください。代表者にのみ連絡を差し上げます。)(趣旨が英語の場合は、氏名、所属の英語表記もお知らせ下さい。)
 - 1) 氏名(ふりがな)
 - 2) 所属
 - 3) 連絡先 ①郵便番号、②住所、③電話番号、④E-mailアドレス
5. 希望の会場の大きさ(70-100, 130-180, 280-290人規模からお選び下さい。)
6. ポスター発表の設置希望の有無
7. プログラム編成委員会への要望・連絡等

(2) 企画シンポジウムの場合

1. タイトル(日本語)
2. タイトル(英語)
3. 趣旨(日本語または英語)(日本語の場合、全角800字以内。英語の場合は、同程度の長さ)
4. コーディネータ(複数の場合も全ての方についてお書きください。複数の場合は、一番上の人を代表者としてください。代表者にのみ連絡を差し上げます。)(趣旨が英語の場合は、氏名、所属の英語表記もお知らせ下さい。)
 - 1) 氏名(ふりがな)
 - 2) 所属
 - 3) 連絡先 ①郵便番号、②住所、③電話番号、④E-mailアドレス
5. 希望の会場の大きさ(70-100, 130-180, 280-290人規模からお選び下さい。)
6. 発表予定者リスト(各発表予定者の氏名と所属)
7. 発表者に非会員を含める場合、その理由
8. 希望時間(3時間以内。15分単位で記入してください。)
9. 関連する部門(林政、風致、教育、経営、造林、遺伝・育種、生理、植物生態、立地、防災、利用、動物・昆虫、微生物、特用林産の中からお選びください。)
10. プログラム編成委員会への要望・連絡等